

カメラ・写真・統計



「島・一」

“カメラをブラ下げていること、メガネをかけていることは日本人の特徴、とは外国人の日本人観であるといわれているが、“カメラを持つことが出来る位生活にゆとりが出来ればなあ、”とひそかにカメラ族をうらやんでいた筆者も、昨年来の大量生産でコストの低下を理由に誰にでも買えるカメラと銘打つて値下げを発表したR光学会社のモノを最近買込む仕儀とは相成つた。ところでその辺や彼女達をパチリパチリやつてはいるがどうもカメラ族では満足出来ず写真族にまで発展したくなりそうである。写真族になるには現象焼付の設備、器具、引伸機等々まだまだ先が大変である。しかし写真も、唯ありのままを写すだけでなく何か作つてみたくなるから、写真族にまでなりたくなるものらしい。

ところで写真を作るというときに“見合写真”を思い出す。プロ写真族にきくと“見合写真なんてものは、都合の悪い本当のものはしまつておいて、キレイに修正したものを相手に渡せばいいんですよ、”という。先日或る口の悪い仲間曰く、“統計の数字はどれも見合写真に似てるような気がするな、大体官庁の統計なんて都合の悪いのは部内秘資料で、いくらか手を加えて公表する。そして顔は一応キレイな様にみせるが頭のよさそうだとか悪そうだとか、生きてる人をみれば想像もつこうが死んだ写真同様サツパリわからない。そして統計の数字を口にする方も、都合のいいものだけを取上げて、都合の悪いものは黙殺しているみたいでどうもね、”と、

まあ統計と見合写真がそれ程似ているものとは思わないが、そうゆうふうを考える人もあるかも知れない。しかし、見合写真がいかに修正されたとしても男を女に見せることは出来ないし、大体そんなことをしようと、かして貰いたいと思う人はいやしないだろう。しかしアバタがエクボに見える位のことはあるかも知れないし、それは実物をもてもそう見る人もいるだろう。

見合写真なら実物を見ることによつてよりよく理解することが出来るが、統計の数字は現実をみて正しい理解をするような対象ではないことが多いので一寸困るけれども、統計の数字だつて男を女にすることなど不可能であつて、アバタとエクボの違い位は見る人によつて違つて来ってしまうのでそうそうゴマ化して非難するには当たらないだろう。“見合写真なんて時代おくれな、”と若い人はいかも知れぬが彼女が常に後光を背負っている、ように見えてしまうような恋心は一寸困りものである。時にはキャノンレンズかニツコールレンズみたいな解像

力のいいモノで撮つたビントのいい写真でトクと彼女を観察してみたらどんなものだろう。統計数字だつて同じこと、先入観でみていては男が女に見える危険もあろうというもの。先づ数字を見る人が素直によく調べてみて貰いたいものだと思う。

また顔だけみて頭がいいかどうか想像することはむづかしいことであろう。写真一枚では一寸ムリである、統計数字でも同じことがいえそうである。むしろ他にいくつかの統計数字を参考にすれば、一枚の写真だけでなく他人から彼女の頭のヨサを聞く面倒さを惜しまぬならばよりはつきりわかると同様のことが言えそうである。特に統計数字は関連のあるいくつかのものがある筈であるから、一枚の写真で頭のよさを判断してすぐれたカンを誇るようなことならば、はじめから統計数字を使う程のことはないと思ひ上げたい位に思うがどんなものだろう。統計数字を使う人が一方的であるということも何も写真一枚だけでとか似たような何枚かとか、使うことを誰も限定しているわけではないので、読む人が他に関連するいくつかのものを探す努力を惜しまずに読んでいただきたいものとお願ひしたい。

写真でも最近続々と伝統あるカメラが改良型を出し、レンズもすぐれたものが発表され、夜でもフラツシユなんか不要になり、また写真の使用範囲はますます広がつて来ているようである。勿論我々シロウトカメラ族では使ひもならないけれども、作られた写真を見ること、そしてそれを有効な手段として楽しむことも物事を知ること出来るようになった。統計を作るのは官庁や専門の人々に限られているけれども、報道写真や芸術写真や学術的な写真にも比すべき性質のものが少なからず発表されているので、使う方さえその気になるならばずいぶん利用出来るのではないかと思う。

